

園芸産地の維持・拡大と生産性の向上（ものづくり）

南郷トマトの産地維持と 生産力の強化

南会津農林事務所農業振興普及部

- ・南郷トマト生産組合は、令和4年に栽培60周年を迎えた歴史ある産地。
- ・「南郷トマト」とは、下郷町、只見町、南会津町産で、JAに出荷された夏秋トマトのこと。

表1 南郷トマトの主なできごと

S37	南郷村※でトマト栽培開始
S41	伊南村※、只見町でも栽培開始
S48	南郷トマト生産組合結成
S51	南郷村※に選果場を設置
S62～	ハウス栽培への転換
H元	Iターン就農者の受入開始
H5	カラーセンサーを備えた選果機を導入
H6	初の販売金額10億円突破
H15	雪室予冷庫等を備えた選果場を建設
H23	東日本大震災、新潟・福島豪雨により被災
H27	日本農業賞大賞受賞

※現南会津町

南郷トマト生産組合（以下、「生産組合」）

事務局：JA会津よつば

みなみ西部営農経済センター

組合員数：105戸

栽培面積：31.4ha

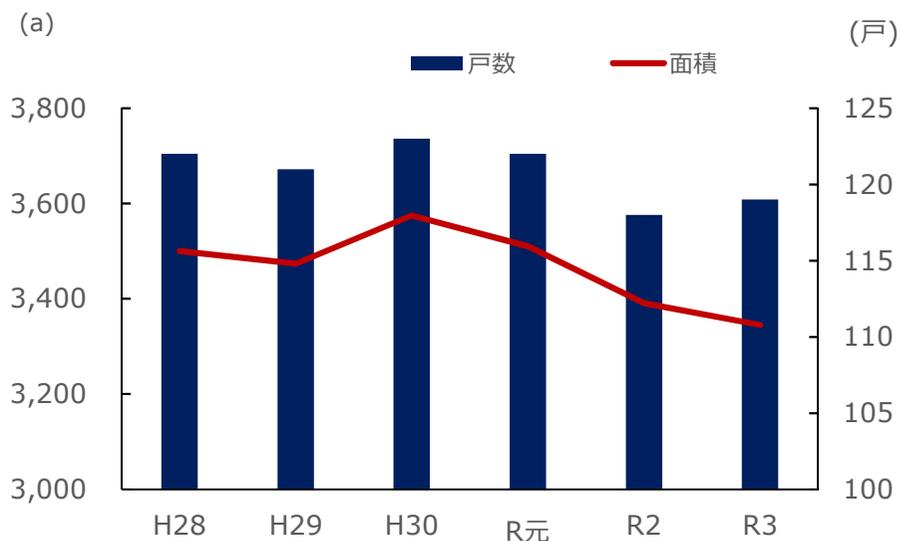


図3 生産者数と栽培面積の推移

《産地の課題》

生産者数・栽培面積が減少

生育後半を中心に収量が低下傾向

物価高騰等により生産者の所得が減少気味



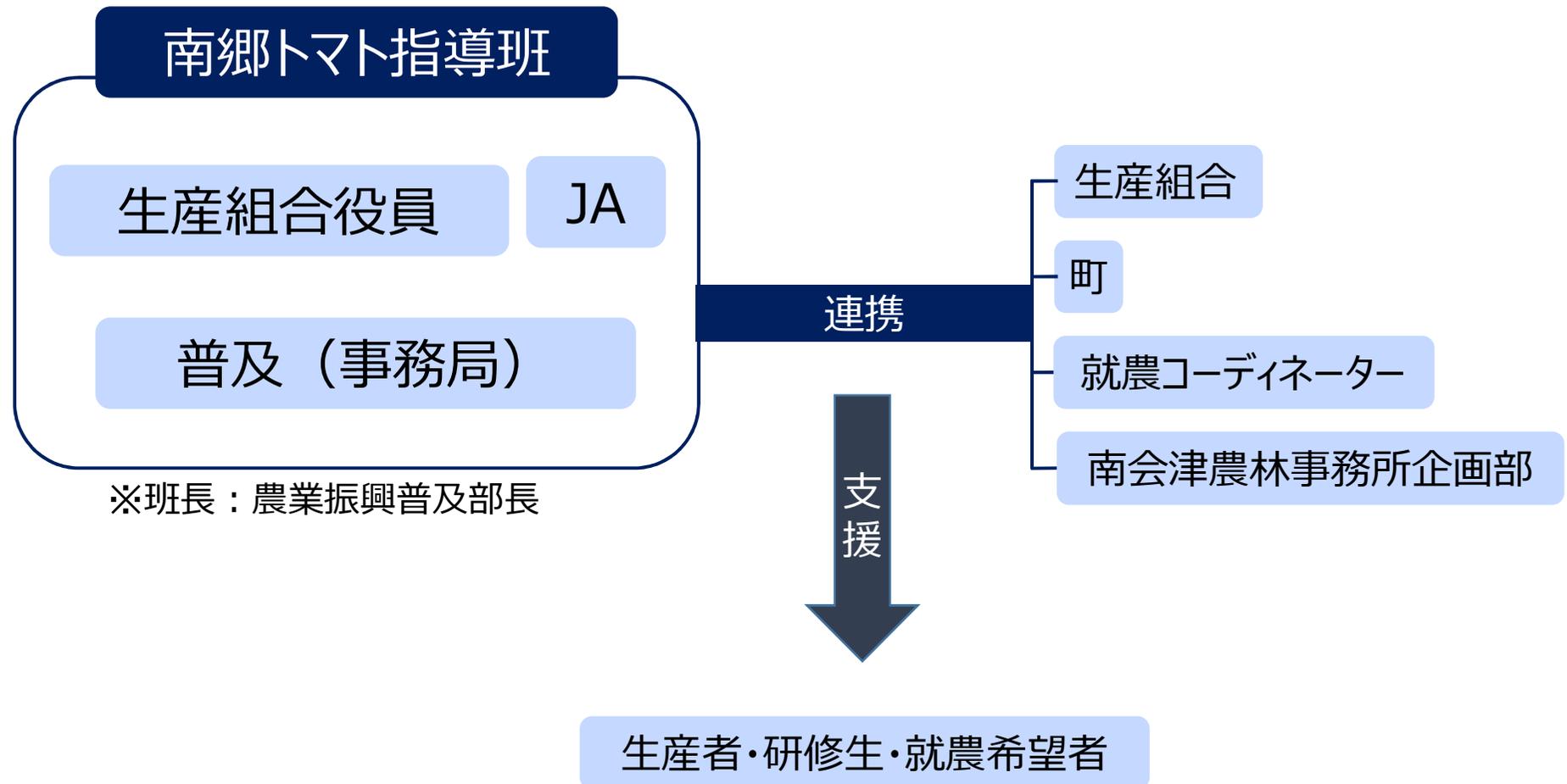
《普及活動のねらい》

(ねらい1)
産地規模の維持を図る！

(ねらい2)
単収と品質を向上させる！

(ねらい3)
ブランド力を強化する！

南郷トマト産地の維持・発展ともうかる農業の実現を図る！



※「南郷トマト指導班」が技術的な支援方針を決定
生産組合、行政機関、就農コーディネーターの他、市場や販売店も含めた
「チーム南郷」として一丸となって産地を振興！

1 産地規模の維持に向けた取組

(1) 新規就農者の確保・育成

○あらゆる機会を捉えて新規就農を呼び掛け



半農半Xの生活をSNSで紹介

○就農意欲を喚起



JA、町、普及等で相談継続

○就農意思の最終確認



チェックリストで
もれなく心構え
を確認

研修へ
(2年間)

1 産地規模の維持に向けた取組

就農前

○就農研修生の技術取得支援



研修期間中に、研修受入農家、JA、町、就農コーディネーターと連携して
ほ場準備や青年等就農計画の作成などの就農準備をサポート

就農後

- 就農2年目までの生産者を重点指導対象として指導
→ JAと普及が週1回程度の巡回による技術指導を実施

活動内容

1 産地規模の維持に向けた取組

(2)生産者の規模拡大

○栽培ほ場の団地化と規模拡大

農地中間管理機構関連農地整備事業 只見町梁取地区への支援



(写真)
トマトハウスの移転計画打ち合わせ

- ・ほ場整備を契機に点在する生産者6名のトマトハウスを団地化（園芸団地の形成）
- ・トマトを休作せずにパイプハウスを撤去・移設・新設
- ・トマト栽培面積の拡大
（現状）3.7ha → （整備後）6.2ha

2 単収および品質向上のための取組

(1)新品種「桃太郎みなみ」の導入

JAや生産組合とともに、種苗メーカーの有望系統を試験栽培し、裂果が少ない新品種「桃太郎みなみ」の導入を決定。(H30～R4)

※R5に「桃太郎みなみ」を本格的に導入（全面積の79%）

(支援策) 栽培前の勉強会、栽培期間中の現地指導会、
若手生産者と協力した生育特性の調査とその結果の報告



栽培前の勉強会



現地指導会



若手生産者による事例報告

2 単収および品質向上のための取組

(2)秋期の収量確保

○摘芯指導会の開催



9月上旬頃にトマトの生長点を止めて、開花しても出荷に結びつかない花を抑制。
余分な開花をさせないことで、果実の充実を促進。

写真：摘芯指導会の様子

○病害等の被害抑制



青枯病対策や高温対策の遮光資材の効果を調査するため、若手生産者と連携して調査ほ場を設置し、その効果を検証。

写真：転炉スラグによる青枯病対策試験の様子

活動内容

青枯れ病対策試験の結果



対照区（上）と試験区（下）の様子（9/4撮影）

日本農業新聞 2023年(令和5年)12月18日(月曜日)

トマト青枯病に転炉スラグ

化学農薬に頼らず軽減

みどりの一歩

転炉スラグ資材散布の試験区は、トマトの栽培中、低い発病率を維持していた

調査日	対照区 (%)	試験区 (%)
8月10日	12.2	0.6
9月10日	51.9	6.5
10月4日	64.7	13.5

上臈り日矯正が奏功

日本農業新聞に掲載 (12/18)

3 ブランド力強化の取組

○JGAP団体認証の取得を推進

JGAP取組開始

先発隊31戸がJGAP
団体認証を取得
総会で全員が取得
することを決議（R元）

R5の取組

12名が新規認定に取り組み
認証取得となった。
取得率
 $87戸 / 105戸 \div 83\%$

次年度の取組

全戸で取得する！



役員や新規取組者に対する
研修の開催



内部監査の実施
役員が「内部監査員補」



新規取組者を中心に
普及が個別支援を実施

活動成果

成果測定事項 1 新規栽培面積（単位：a/年）

現状（R4実績）	R5目標	結果（R5実績）	実績評価
40.7	50	<u>5</u>	D

※参考

R5は、南郷トマトの新規栽培者がいませんでした。
今春、若い生産者が1名新規就農予定で、3組の就農希望者が、就農前研修を開始します！

活動成果

成果測定事項 2 単位収量（単位：t / 10a）

現状（R4実績）	R5目標	結果（R5実績）	実績評価
8. 2	9. 4	<u>8. 5</u>	D

※参考

令和5年産の県内主要トマト産地の単位収量は、前年に比べて約15%ダウン。（園芸課調べ）



南郷トマトは前年比4%アップし、安定した収量を確保しました。

活動成果

成果測定事項 3 第三者認証GAP取得率

(単位：%、認証戸数/生産組合戸数)

現状 (R4実績)	R5目標	結果 (R5実績)	実績評価
69	90	<u>83</u>	C

※参考

R5上半期の新規GAP取得経営体数 17経営体
(環境保全農業課調べ)

このうち、約6割 (10経営体) が、南郷トマト生産者です！

R6には、生産組合全戸がGAPを取得します。

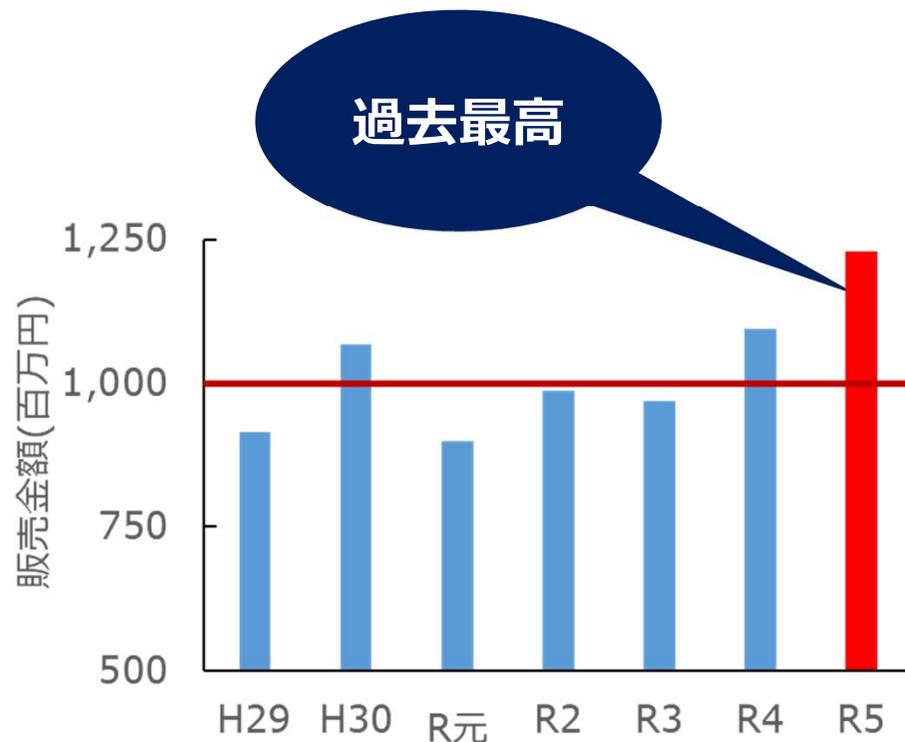


図7 生産組合の販売金額の推移

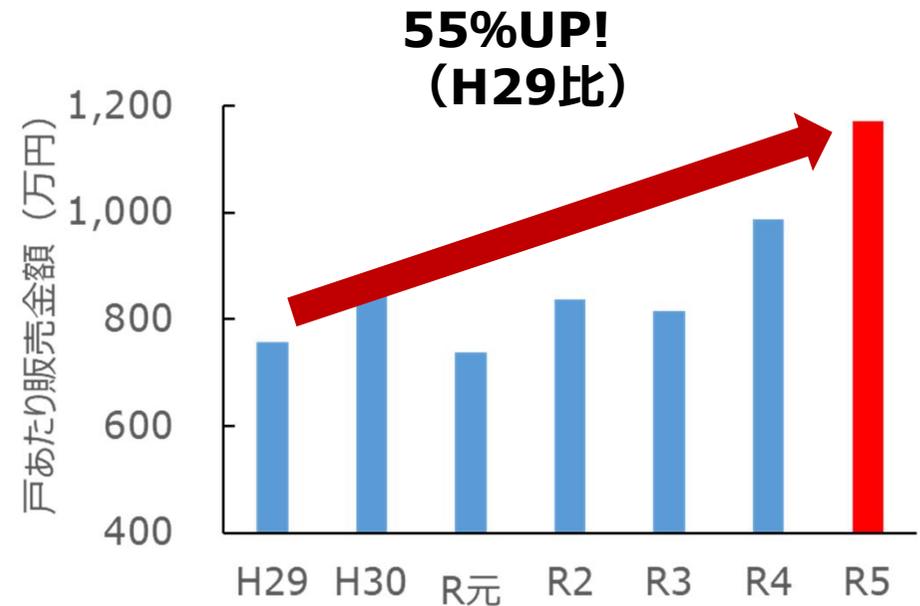


図8 1戸当りの販売金額

★ R5の南郷トマト販売金額は過去最高の12億2900万円

★ 1戸あたり販売金額が大幅に増加（一戸平均1,170万円）

もうかる農業が実現！

【新たな課題】

- ・労力不足が、既存生産者の規模拡大の障害に・・・
- ・高温による花落ちや果実品質の低下が増加している・・・
- ・JGAP団体認証を全員が取得した後の販売対策の検討・・・

↓
今後は

【方向性】

- ・多様な労働力確保による産地規模の維持・拡大支援
- ・気候変動に合わせた高温対策技術等（ミスト等）の導入検討
- ・多様なツールの活用による販売力の更なる強化

**南郷トマト「100年産地」を
目指して産地支援を継続！**